

実相寺は上鳥羽西側にあり、法華宗にして、開基は大覚上人なり。本堂の脇壇に松永貞徳翁の像あり。〔手に蘆の葉を持、長頭磨又円陀磨とも称す。松永弾正久秀の落胤とぞ。天正五年大和国信貴城滅亡のとき六歳なりしが、母方の親族に養はれ、成長の後武道を捨て、細川玄旨幽斎を師とし、長嘯翁を友とし、和歌連歌をよくし、俳諧を以て世に鳴、俳式御傘を著す〕蘆丸屋〔本堂の巽にあり、貞徳翁閑居し給ひし所なり〕貞徳翁墓〔蘆丸屋のうしろにあり、塔の銘には逍遊軒明心居士とあり、承応二年十一月十二日卒、八十二歳〕

家集 われ死なば桜に花をさ、げよと仏にちかくうゑや置けん 貞徳

同 あすはかくときのふおもひしこともけふおほくはかはる世のならひ哉 同

長嘯翁西山へこもり給ひけるときつかはしける

同 とにかくに月はうき世にすまじとや山より出て山に入るらん 同